

# 町田地区保護司会だよ！

第95号

発行 町田地区保護司会  
会長 平本 章一  
編集 広 報 部  
TEL 042(794)6791



秋祭り町田天満宮御神輿 町内渡し



## 街づくりは子供の健全育成から

町田警察署長 金子 伸司

前任では、警視庁少年育成課長として少年の健全育成を目指して汗を流しておりました。

そこで今回は少年非行について述べてみたいと思います。

戦後の少年非行のピークは昭和50年代です。例えば、昭和57年頃の都内における少年による刑法犯の数は3万5000件を超えており、昨年の4倍もありました。

当時の暴走族や校内暴力の状況、シンナーや喫煙等、街頭での非行状況を思い浮かべていただければ、肯けるところでしょう。

混沌とした戦後の社会情勢の中、安保闘争をはじめとする学生運動、急速な核家族化、高度成長期における価値観の推移等、少年を取り巻く環境は複雑で多くの問題を含んでいたのでしょう。

その中で、日本の古来の風習や伝統が古臭いものとなり、道徳心や美徳といったことまでもが置き去りにされた気がしてなりません。

しかし、時代の振り子はゆっくりとでも戻っていくものです。平成に入り、特に10年頃から少年を取り巻く環境も落ち着きを取り戻しました。

いくつかの要因を挙げれば、セーフティ教室やスクールセンター制度など、警察と学校との連携が進んだこと等があります。

しかし、何よりも日本の良き伝統が見直されてきたことが大きいと思うのです。町田市においても、古来からのお祭りに加えて、例えば「エイサー」や「よさこい」などが盛んになり、着実に少年たちに良い影響を与えているはずです。

治安対策の一つの考え方には、にごった水をせき止め、他の地に流すというものがあります。しかし、そもそも水をにごらせないことが重要です。

これからも警察と行政そして地域が連携し、子供たちをまっすぐに育てていくことで、町田を、そして日本を、益々安全で住みやすくしてまいりましょう。

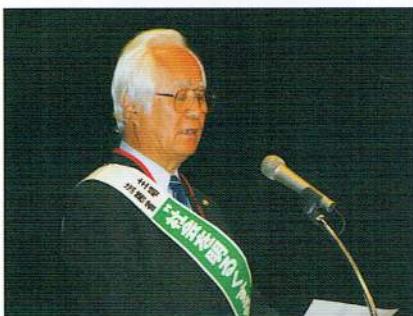
## 第64回「社会を明るくする運動」町田大会・記念講演会

式 典  
記念講演

## 再出発を見まもり支える社会に

演題「犯罪のない明るい社会に向けて」

講師 北芝 健氏



平本推進副委員長



有金推進委員長代理



東京保護観察所南元立川支部長



講師 北芝 健先生



手前 受賞した中学生とご家族の皆様



感謝の花束贈呈

7月30日、町田市民ホールにおいて491名の参加者を迎えた。

開会のことばは、町田地区保護司会会长で「社会を明るくする運動」推進委員会副会長の平本璋一が行い、続いて推進委員会委員長石阪町田市長の代理として有金浩一副市長が挨拶した。東京保護観察所南元英夫立川支部長からは祝辞を頂き、曳地町田警察署生活安全課課長、実川南大沢警察署生活安全課課長、竹内主任保護観察官を来賓として紹介した。

続いて、第63回「社会を明るくする運動」の作文コンクールで佳作を受賞した町田市立成瀬小学校の清水陸大君が「犯罪や非行を防ぐためには」を、東京更生保護女性連盟会長賞を受賞した町田市立小山中学校の山本彩由さんが「受け入れる」を、東京都保護司会連合会会長賞を受賞した町田市立忠生中学校、長谷山葵さんの「輪を広げていくことで」を、それぞれ受賞者及び代読者が朗読した。総合司会は有賀町田市公立中学校校長会代表が務めた。

第2部では元警視庁刑事で犯罪学者・作家でもある北芝健氏が、「犯罪のない明るい社会に向けて」と題した講演を行った。

北芝講師は、警視庁在職時代、殺人・強盗・詐欺・特殊犯罪等の事件を扱い、ロス市警、FBI等とも交流。現在は、犯罪学者・テレビ番組のコメントター・作家等として活躍しているが、それらの経験を踏まえた講演の内容は、更生保護に携わる者にとっても参考になるものであった。

講演が終わると町田母の会の梶原委員が花束を贈り、盛会のうちに幕が下りた。

(地域活動部 高野 昌憲)

## 社会を明るくする運動 町田推進委員会

町田市・町田警察署・町田防犯協会・町田交通安全協会・町田地区保護司会・町田地区更生保護女性会・町田市公立小学校校長会・町田市公立中学校校長会・町田市公立小学校PTA連絡協議会・町田市立中学校PTA連合会・町田市社会福祉協議会・町田市人権擁護委員・町田市民生委員児童委員協議会・町田市青少年健全育成地区委員会連絡協議会・町田BBS会・町田市町内会自治会連合会・町田母の会・町田市少年補導協会・町田少年補導員・町田市子ども会育成会連絡協議会・町田市レクリエーション協会・玉川学園高等部・桜美林中学高等学校・日本大学第三高等学校・和光中学高等学校・鶴川高等学校・市内都立高等学校・市内都立高等学校PTA連合会・東京町田ロータリークラブ・東京町田中ロータリークラブ・町田青年会議所・東京町田ライオンズクラブ・町田市農業協同組合・町田商工会議所・西東京朝鮮第二幼稚初中級学校



挨拶をする  
荒木東京保護  
観察所長

### 平成26年度 第6ブロック保護司組織運営連絡協議会

## 「保護司の安定的確保」について集中協議



協議会会場



発表者、春山分区長



質疑に応える松沢分区長



主旨説明をする  
石井統括保護  
観察官

10月24日、ホテル ザ・エルシィ町田の会議室で第6ブロック保護司組織運営連絡協議会が行われた。第6ブロックに属する保護司会は、日野・多摩・稲城、西多摩、八王子、町田の4地区であり、毎年会場を持ち回りで行っている。今年度は、町田地区保護司会が当番であった。

今年度の協議内容は、昨年と同じ「保護司の安定的確保」についてである。現在、第6ブロックの保護司充足率は、町田の95.2%を筆頭に90%以上を確保している。しかし、東京都では、今後10年間で6月1日現在の保護司の40%（1400人以上）が、任期満了を迎える。従って、どこの地区でも適任者の確保が喫緊の課題であるという。

町田地区保護司会では、広く意見を求め意見書を作成するため、協議員を各分区長、副分区長などを中心に16名で構成した。

運営協議会では、平本町田地区保護司会長の開

会挨拶に始まり、荒木東京保護観察所長、熊澤東保連副会長よりご挨拶を頂いた。そして、石井統括保護観察官から協議事項の主旨説明があり協議に入った。各地区から持ち寄った意見書をもとに活発な提案や発表そして、真剣に討議が行われた。

町田地区保護司会は、春山分区長が意見発表を行った。他地区から質問や意見が出されたが、内容が具体的で分かり易かったと好評であった。

最後に、荒木東京保護観察所長、熊澤東保連副会長から「保護司として誇りと自信を持って続けて欲しい。それが、社会を明るくする運動につながる」という激励と講評をいただき閉会となった。

その後、懇親会が和やかに開かれ、町田地区保護司会のおもてなしに感謝され終了した。次年度の会場は、日野・多摩・稲城の予定である。

（書記担当 小野 敏明）

### 更生保護事業 協力事業主会就労支援研究会

町田市役所の会議室にて協力事業主会7社、町田市地域福祉部生活援護課4名、保護司会3名で9月18日に就労支援研究会が開催された。

この研究会の発端は、5月16日に開催された総会に於いて、地域福祉部の挨拶の中に生活援護費をいかにして削減できるか工夫したいという言葉を受けて、役員会で協議し開催に至ったものである。

会長の挨拶で始まり、参加者全員の自己紹介その後、協議に入った。

協議内容は、生活保護受給者への就労支援状況と協力事業主会と就労の関わりについて、生活援護課の係長から説明があった。就労支援には、町田市就労支援プログラムが4つあり、被保護者に一番適切なプログラムを選定し、具体的な就労支

援を行っている。このプログラムを利用して就労に結びついた就労者数は昨年度で185人であった。

更に、今年度は目標を多く掲げ、これを達成するには受け入れる事業所の協力が不可欠である。1人でも多くの就労者を受け入れたいとして、今回協力事業主会と生活援護課との研究会が持たれた。研究内容としては、双方から色々と具体的な提案が出され一歩も二歩も前進でき、今後の事業主会に更なる期待を抱いた。

（就労支援担当企画調整保護司 村田 功）



## 堺分区

### 啓発活動「相原ふれあいフェスタに参加」

10月12日、堺分区の啓発活動として町会主催の「相原ふれあいフェスティバル2014」に参加しました。

大型台風19号の速度が遅く雨天の心配をしていましたが、当日は晴れ間も覗かせ、早朝から一万人を超える人出があったそうです。10時の開催からパンフレットを説明しながら手渡しました。配布物に目を止めた近隣大学の学生が興味を持ち、ペテラン保護司が丁寧に話をしながら保護司会の説明を行いました。将来の理解者が協力者になってくれる事、人と人との繋がりが増える場として大切にしていきたいと思いました。

テント内でも、気軽な話題も多くホッとした話や情報交換・自主研修内容など充実した分区活動

も進めることも出来て、保護司会間の交流も図れました。

最後に、新調した保護司会のベストも遠くから目立ち、地域から好評でした。

(堺分区  
横溝 一枝)



## 鶴川分区 自主研修

### 青少年の「S T O P」ネット犯罪

9月12日町田警察署生活安全課少年第1係長竹生智恵子氏を招き研修を行った。

スマートフォンには危険もいっぱい。警察庁の平成25年中の出会い系サイトやコミュニティサイトを利用して犯罪の被害にあった子供は1452人。多くはサイトの危険性について保護者から注意を受けていなかったそうだ。

インターネット上には「無料通話アプリ」のIDと相手を誘うコメントを掲示板に書き込み、見知らぬ人と出合う事ができるサイトやアプリが多く出回っている。これを子供が使って犯罪の被害にあうケースが多発しているという。

## 忠生分区

### 警視庁本部・国会議事堂見学



10月6日、分区の自主研修として警視庁、国会議事堂の見学を実施。当日は台風18号の襲来直前で実施が危ぶまれる中、また先行きの交通状況も不安視されつつも、目的地の警視庁には順調に到着。職員の案内で通信指令センターの110番受理状況を見学。今まさに発生しているであろう事件、事故の通報に指令がなされている緊張した空気は、ガラス越しの私達にも充分感じられた。意外なことに町田の110番通報件数は、都内で、新宿区に続き2番目に多いとのこと。

午後は、国会議事堂を訪問。小倉将信議員秘書の案内で、まずは中央塔内の4階吹き抜け中央広間の空間に圧倒される。赤じゅうたんを進み伝統ある衆議院議場へ。長い民主主義を物語る格式ある議場を見ていると、立法機関として常に国民に支持される本会議を願う思いである。最後に議員会館へ小倉衆議院議員を訪問。意見交換、記念撮影を行った。

(忠生分区 飯田 仁)



特に児童ポルノや児童買春など犯罪に巻き込まれ最悪のケースや恐喝、妨害サイトでは学校に爆弾を仕掛けましたとサイトにいたずらの投稿など、子供の犯罪も多発。被害にあったり犯罪を犯した子供の多くはフィルタリング（有害サイトのアクセスを制限するサービス）を利用していなかつた。必ずメーカー販売店に問合せることが大切と言われた。

今やスマホ時代。子供が持たないと、友達や仲間から遅れてしまうと考える親心もわかると話された。

最後に小学生による万引き被害がコンビニで多発していると話された。

(鶴川分区 吉川 俊雄)

## 町田分区 健全育成玉川学園地区委員会

### 「秋の子どもまつりを終えて」

10月19日(日)、町田第五小学校にて開催された第28回秋の子どもまつりに参加しました。当日は、さわやかな秋晴れで、会場は多くの子ども達、家族連れでにぎわっていました。

町田分区の「わなげ」にも、小さな子どもから小、中学生がたくさん訪れ、250個用意した景品が午前中で終了してしまう程の盛況ぶりでした。

訪れる子ども達は、友達や家族と輪投げを通して笑顔あふれる時間が過ごせ、接している私も心が温かくなりました。輪を投げる子ども達の様子を見ていると、野球のボールを投げるように投げる子、的までの距離感がつかめず、遠くまで飛んで行く子など不慣れな子どもが多いことに気が付きました。

私が子どもの頃と今の子どもの生活や遊びは違う、遊ぶ場所は限られ、習い事に忙しく、タブレット端末が豊富な現代。友達と夕暮れまで夢中になって遊んで、教えあったり、競ったり、工夫したり、時には喧嘩したりする中で得る、人を信頼する気持ちや、同じルールを守りながら遊ぶ楽しさを今の子ども達は、どれ位経験できて育っているのか、考えさせられます。

時代とともに変わることなく、子ども達へ関心を持って声をかけ、健全な心の育ちを見守る大人でいたいと思います。

(町田分区 渡邊 泰史)



### 第33回多摩地区更生保護事業 関係者顕彰式典が開催される



7月4日(金)午後2時より立川第二法務総合庁舎9階、東京地方検察庁立川支部大会議室において、第33回多摩地区更生保護事業関係者顕彰式典が開催されました。

本年度の受彰者は125名 1団体(保護司48、更

## 南分区

### 成瀬まつり活動報告

春の恩田川さくら祭りが雨のため、8月2、3日と更生保護施設鶴舞会支援チャリティバザーを成瀬まつりに便乗して行いました。過去に夕立があったり、さあこれからだ…と、言う時に気勢をそがれたりした様な事もありました。

今年は、異常気象で暑さとの鬭いとなりました。松沢分区長の熱中症に気を付けましょうの注意の後、会員、桐友会有志一同「社会を明るくする運動」とプリントされたお揃いのTシャツを着て活動開始。冷えたラムネとポップコーンを販売。そして危険ドラッグ使用禁止のチラシとメディックバンの配布等、暑さに負けず和気あいあいの中、支援バザーや犯罪、非行防止の広報活動ができたと思います。

今年度からは、町田地区保護司会より鶴舞会へ助成金の支援が始まり支援の環境も変わりつつあります、南分区の大切な活動の一つに変わりはないと思っております。今年も11月には鶴舞会入所者との交流会が予定されています。「そば打ちや山形風芋煮」など昼食を囲んでのふれあいが企画されており、料理の温かさだけでなく、心の中で温まるレシピを検討し、一日も早い社会復帰をと願っております。 (南分区 宮本 幹雄)

各

分

区

の

活

動



生保護女性会員62、保護司会事務担当者7、BBS会員、協力雇用主各1)。

式典では、感謝状が森久保会長より受彰者の代表5名に贈呈され、受彰者を代表して北多摩西地区の保護司より「この感謝状を励みに、相手の気持ちになって誠意をもって真剣に取り組むことが対象者の心を開くと信じ、これからも努力をしていきたい。」と、謝辞が述べられました。

町田地区保護司会からは、坂倉 優保護司と加藤俊夫保護司の2名が表彰されました。第2部は、「紫翠苑」施設長名取雄三氏による講演がありました。

(広報部 要約)



堺分区

**諏訪 賢一**

私が小さい頃、祖父が対象者を面接していることを憶えています。後になって保護司という活動を知りました。その後、保護司の仕事が父から近所の方に引き継がれ、平成4年に回りまわって私に声がかかりました。

昭和62年に父が始めた郵便局を継ぐ事になり、郵便局長の仕事として社会・地域貢献活動が大切であることから、保護司の活動も快くお受けしました。また、PTAやまちづくり活動、障がい者施設やお寺、NPO活動等々、ボランティア活動を現在も続けています。しかし、保護司活動は罪を犯した人々の更生や再犯防止、犯罪のない地域づくりなど非常に難しい活動であり、到底ひとりの力では出来ないことを主任担当官や町田地区保護司会の方々の支えやアドバイスがあったからこそ、ここまで続けて来られたこと感謝しております。今後は、この栄誉に恥じることのないよう精進致す所存でございますので、ご指導・ご鞭撻をお願い申し上げます。

鶴川分区

**中岡 秀子**

10月1日、東京国際フォーラムに於いて「更生保護施行65周年記念全国大会」が挙行されました。

式典（午後1時）開式の辞・黙祷。

常陸宮同妃殿下ご臨席のもと、国歌斉唱・式辞、法務大臣表彰が行われました。

更生保護法人全国保護司連盟理事長表彰、更生保護法人全国更生保護法人連盟理事長表彰、保護司特別功労章の後、受彰者代表謝辞。

常陸宮殿下のお言葉を戴いた後、法務大臣挨拶、常陸宮同妃殿下御退席。閉式の辞を以て式典終了閉式致しました。全国の受彰者は北海道から沖縄まで総数約1500名が参加、東京保護区からの受彰者91名が参加されました。

私は、平成5年5月に委嘱を受けてから21年余りの年月が経ちました。5年に一度の「全国大会」の節目に表彰を戴けた事は、身に余る光栄と感謝申し上げます。これも偏に皆様の支えがあったればこそその受彰だと思っております。微力ですが、これからも保護司活動に邁進させて頂きます。



忠生分区

**原 雄三**

この度、思いもよらぬ過分なる法務大臣表彰の栄に浴しましたことは大変光榮に存じます。これも偏に皆様のお力添えの賜と感謝申し上げます。

顧みますと平成6年に保護司を拝命し、以来数多くの対象者と「慈愛の心」で向き合ってきました。みんな更生できたと自負しております。

なかでも保護観察を終えた若者から結婚式の招待を受けた時、悩んだことです。喜んで出席したいが「親は・親戚は」と気を遣いましたが、親から「立派な姿を見て下さい」と言われた言葉です。

恵まれない家庭環境で私が担当して立派になって欲しいと涙ぐみました。

これからも受彰に恥じないよう誰とも慈愛の心で接しようと思います。よろしくお願い申し上げます。有り難うございました。

**受  
彰  
お  
め  
で  
と  
う  
ござ  
い  
ま  
す**

## 第36回 関東地方 更生保護大会に参加して

10月29日静岡市民文化会館に於いて、5年毎に開催される関東地方更生保護大会があり、関東地区1都10県の更生保護関係者1800人、町田地区からは平本会長はじめ9名が参加した。

開会の言葉にはじまり、静岡大学名誉教授小和田哲男氏の「家臣を立ち直らせた武将たち」と題した講演があった。式典に入り表彰、来賓祝辞等があり閉会した。5年後は栃木県で開催される。

第6ブロックは合同でバスに乗り現地に向かい、晴天に恵まれ冠雪の富士山が美しかった。帰りは八王子の方と隣席になり色々話をして有意義な1日を過ごすことができ、これからも更生保護活動の一端を担っていくことの大切さを痛感した。

（南分区 吉田 廣子）



## 「サポートセンター町田談話室」 オープン

談話室長 近藤 幸



平成20年6月にサポートセンター町田が設置され、各種会議、ひまわり相談に活用されています。

分区内では、種々な会議、研修などを通して、保護司間の交流はありますが、他分区の方々と交流の機会が非常に少ないです。

そこで、分区を越え町田地区として、会員同士が情報を交換したり協議したり、新任保護司の方をサポートする交流の場として開設しました。保護司の職務が多岐にわたる中、保護司活動の一助になればと思います。



### 各部紹介④

#### 地域活動部

部長 内田 紗子

部員5名（各分区理事）とオブザーバーとして担当副会長1名で構成されております。“犯罪や非行を防止し、立ち直りを支える地域のチカラ”という副題の法務省主催「社会を明るくする運動」が町田市推進委員会（36団体の代表者組織）の計画に基づいて、7月初旬には駅頭・街頭広報活動を7月下旬には町田市民ホールに於いて町田大会が開催されます。そのための説明会や打ち合わせ等、役割分担に従い活動しています。尚、両日については、保護司会をはじめ関係機関の方々にご協力をいただいております。

また、地域環境浄化活動及び非行防止活動の為に12月初旬、夕刻の1～2時間を使い町田駅周辺繁華街防犯パトロールと称し、警視庁町田警察署署員同行でインターネットカフェ、マンガ喫茶、ゲームセンター、カラオケボックス、危険ドラッグを取り扱い販売しているだろうと思われる店等

9月12日「会長を囲んで」を企画し、保護司歴1～4年の方にご案内致しました。

保護司の活動内容、対象者とのかかわり方など処遇について和やかな雰囲気の中、終了しました。

どなたでもお気軽にお立ち寄り下さい。お茶を用意してお待ちいたしております。

### ◆オープン後、実施した特別企画◆

- 7月25日 「サポートセンターは何をしているの？」  
5月発令の新任保護司
- 9月12日 「会長とお話しませんか？」  
保護司歴 4年以内の方
- 10月10日 「9月発令の新任保護司と懇談会」

### 談話室オープン日

毎月第2、第4金曜日  
午後1時30分～3時30分



を保護司会正副会長・更生保護女性会役員等関係者合同で視察見学をして、現状・現況を把握認識し見聞を広める努力をしています。

今年度は、多摩地区保護司会連絡協議会地域活動部会とN P O 法人東京都更生保護就労支援事業者機構が主催し、東京保護観察所立川支部後援による「就労支援シンポジウム＝今求められる協力雇用主とは＝」についての講演及びパネラーによるパネルディスカッションを開催。

その他、学校との連携等を含め、今後は、充分検討、調整を行い、部員一同協力し推進します。



## 危険ドラッグ撲滅キャンペーン

副会長 小山 典子

近年、危険ドラッグ・覚せい剤等の違法な薬物の乱用による、暴走・死亡事故が相次いでおり、大きな社会問題となっているなか、「脱法ハーブ」から「危険ドラッグ」と名称を変更されたことを期に、町田警察主催による「危険ドラッグ撲滅キャンペーン」が、平成26年7月29日町田駅前カリヨン広場周辺で開催されました。町田地区保護司会からも、会長はじめ30名の保護司が参加し「指定薬物の所持・使用は犯罪」「危険ドラッグ事故多発」「絶対に手を出さないで」等、警告するチラシやポケットティッシュを道行く人々に配布し薬物の怖さを訴えました。

### 新任保護司ご挨拶



忠生分区  
小山 洋子

町田市常盤町在住の小山洋子と申します。このたび、ご推薦を頂き9月1日付けで保護司を拝命させて頂きました。

私は3人の娘の母です。保護司の重責に迷いが多く、不安いっぱいの発進となりました。子育てで得た経験と先輩方のご指導を頂きながら前進して参りたいと思います。よろしくお願い申し上げます。



鶴川分区  
名取 紀美江

—私なりに、精いっぱい—

「保護司」私にできるのだろうかと、ずいぶん迷いました。先輩保護司の方から「苦労も多いが、やりがいがある。やっていてよかったと思うことも、たくさんある」と、言葉をかけていただき、決心がつきました。

わからないことばかりです。不安でいっぱいです。ですが、皆様にご指導いただきながら、私なりに、精いっぱい任を果たしていきたいと思います。どうぞよろしくお願いいたします。

当地区保護司会では、例えば忠生地区の中学校や高校を回り「薬物乱用防止教室」ということで、事例をまじえて自分の人生だけでなく、家族や友人も壊れてしまう薬物のこわさ・やめられないこわさ・絶対に手を出さないようにと、生徒さんたちにお話をさせていただいている。



### 関係団体等との連携に関わる 主な会務

平成26年4月～10月末日

- 5月15日 子育て支援代表者会議
- 5月16日 協力事業主会設立総会
- 5月23日～「社明」町田市推進委員会
- 9月18日 協力事業主会研究会
- 10月15日 更女第6ブロック研修会
- 10月22日 町田桐友会との合同会議

### 編集後記

今年の夏は、連日気温が摂氏40度前後に達する厳しい暑さに辟易した人も多かったのではないかでしょうか。反面喜んだ人たちも多かったとのこと。特に製氷工場は、フル稼働しても受注を全て完納できないという報道もありました。

更に暑さだけではなく、風雨による農産物や人的被害が多く起きました。その被害の中でも、広島市の北部で発生した集中豪雨による災害報道に心が痛みました。

9月2日の夕刊に、注目すべき新聞記事を見つけました。「刑務所のアイドル 保護司に」という大きな見出しだした。保護司の身分や職務内容、全国の保護司の実態が端的に説明されていて私自身多くを学びました。

保護司の総数が1月現在で47914名。女性は26%。平均年齢は64.6歳。当保護司会でも、より長期間保護司として活動できる人材の確保が今後の課題ではないかと思いました。

(榎本 真幸 記)